

飛躍する レンズスターの総合力

日時 平成27年10月24日(土) 7:45~8:45

会場 第8会場 (名古屋国際会議場 2号館3F 会議室234)

座長



清水 公也 先生 (北里大学)

眼内レンズ(IOL)手術の最多、最大の合併症は屈折ズレである。この問題は術後一生ついてまわる問題であり、IOLパワーの決定は非常に重要な問題と考える。

近年の光干渉方式の眼軸長測定装置には、それまでの標準的な機能である眼軸長、角膜屈折力や乱視軸の測定とその後、IOL度数計算に加え、プラスアルファの機能が求められるようになり、よりその総合力が問われるようになってきた。Haag-Streit社のレンズスターLS900においては、2009年の販売開始より数回にわたるソフトウェアのアップデートを経て、トーリックやマルチフォーカルなどのプレミア

ムIOLや、近年増加傾向にあるLASIK術後眼に対するIOL度数計算への対応を深めてきた。

特に最近のアップデートでは、トーリックプラットフォームと称しトーリックIOLの挿入軸計算機能、着脱式ブラチドリリングコーンによるトポグラフィー(中心6mm)機能が追加され、大幅な機能の更新が行われている。

本セミナーでは、3名の先生をお招きして、プレミアムIOLやLASIK術後眼に対するレンズスターを用いた実際の臨床における使用方法をご説明頂き、その有用性を掘り下げていきたい。

演者



田淵 仁志 先生(ツカザキ病院)

**レンズスターLS900の白内障臨床
~他社システムとの比較を中心に~**

演者



飯田 嘉彦 先生(北里大学)

**LS900を用いた
角膜屈折矯正手術後の
IOL度数計算**

演者



岡 義隆 先生(岡眼科クリニック)

**プレミアム手術と
レンズスター**

